

# ESDに関する立教大学の取り組み

リサーチ・イニシアティブセンター／阿部治ゼミナール

2012年12月13日(木)～15日(土)に東京ビッグサイトにて開催された「エコプロダクツ 2012」(主催：社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社)に、立教学院立教大学として、当研究所の研究内容・研究成果および所長の阿部治ゼミ(社会学部)におけるESD活動を紹介するためのブース出展・プレゼンテーションを行いました。

「エコプロダクツ」は、今回で14回目を迎える、日本最大級の環境展示会です。立教大学は「大学・教育機関コーナー」にブース出展しました。ESD研究所は、持続可能な社会の構築への貢献を目的とした、環境教育・開発教育の2本柱によるESD研究・実践活動について、また阿部治ゼミは、ゼミで行っている環境教育に関する実践的活動——企業の環境に対する取り組みを学ぶ「環境就職セミナー」や、系列校である立教小学校にピオトープをつくる活動、地元池袋の商店街の方々が主催で持続可能なまちづくりをする「I-POINT」プロジェクト、新たに始まった「蝶の道」プロジェクトなどについて、パネル展示等で紹介しました。初日には、ゼミ生が「阿部治ゼミナール 2012年度のESD活動」と題したプレゼンテーションを行いました。

## リサーチ・イニシアティブセンター所感

立教大学リサーチ・イニシアティブセンターでは、本学の研究成果、研究関連情報を政府・省庁、自治体、市民、企業、マスコミ、他大学・研究機関、受験生等に広報するとともに、共同研究・受託研究の促進、研究外部資金の獲得促進などを図ることを目標として、2011年度より研究広報・プロモーションをセンターの重点業務に位置づけました。これを受け、「研究活動案内」、「研究者／研究組織シーズ」等の広報媒体を作成・配布しているほか、学外イベントにも積極的に出展し、本学の研究シーズや研究成果を発信しているところです。

当初は、「びわ湖環境ビジネスメッセ 2012」への出展を検討しておりましたが、阿部教授から本イベントの方が、より広報効果が大きいという提案を受け、ESD研究所と阿部ゼミの2本柱で出展することとなりました。

環境への関心の高いビジネスパーソンや生活者が17万人以上来場したイベントに、ESD(持続可能な開発のための教育)に関する本学の取り組みを紹介できたことは、本学をアピールする大変有意義な機会になりました。自然環境保全を中心とする狭義の「環境教育」だけではなく、様々な社会問題(環境問題・人権問題・平和問題・貧困問題など)の解決に資する総合的なESD研究を行っているという、本学の特徴を多くの方に理解していただくことができたのではないのでしょうか。



「環境」は、一昨年の東日本大震災後のエネルギー・電力問題が象徴するように、社会的な関心や問題解決への社会的要請が非常に強い問題であると思います。今後は、今回と同様にESD研究所および阿部教授のESD研究をより一層学内外に広報するとともに、立教大学全体の「環境」への取り組みを発信していきたいと思います。そのためにセンターとしても可能な限り支援をさせていただきたいと考えております。

(リサーチ・イニシアティブセンター 広報担当)

## 出展を終えて

エコプロダクツへの出展は、ゼミが今までやってきたことを整理するきっかけとなり、また、今後の活動を決める良い機会でした。展示物の制作にあたってゼミの目的を再確認したり、活動を人に説明することで理解を深めたりできました。そしてブースでは、様々な人から私たちの活動に意見やアドバイスをいただき、今後すべきことが明確になりました。エコプロダクツに参加したことで今後のゼミの活動がより深いものになると思います。

(社会学部現代文化学科3年〈当時〉 中川久里実)

自分が学んでいる学問に関して改めて考える良い機会でした。ブースに訪れた様々な年齢層、職業の方々にゼミの活動や学んでいるESDを紹介するうちに、多くの疑問の声や提案を聞いて、それに関して私なりに真剣に考えました。ここまで自分が学んでいるものに関して考えたのは初めてだと思います。勉強は必ずしもテキストと向き合うだけではないということを強く感じました。

(社会学部現代文化学科3年〈当時〉 禹敏植)